

## 後援会副会長挨拶

### 「学生生活の先にある “社会で働く”を支援していきたい」

後援会副会長として4年目になりました横山でございます。

保証人の皆様並びに大学関係者の皆様には、日頃から後援会活動へのご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

野城学長、事務局の方々のご協力をいただきながら、東京都市大学後援会として、保証人の皆様のご子息・ご息女の修学、学生生活の向上の一助を担わせていただけることに、大変感謝しております。

毎年国内の複数地区で開催している「保証人対象 大学との連絡会」は、多くの保証人にご参加いただいております。学生生活の先には“社会で働く”というステージが待っていることから、学生の就職に関する事への保証人の関心も高まっています。社会に期待される人材育成は大学の重要な役割であり、後援会としても大学と協力して寄与していきたいと考えております。

野城学長が“大学時代の人的ネットワークは社会に出てからの貴重な財産”と話されていた様に、課外活動、学園祭、研究室等を通してチーム・組織で成し遂げていく力、コミュニケーション力の醸成が大事になってくると思います。

大阪万博を訪れて感じたのは、未来に向けたメッセージです。我が国では、労働人口が減少し働く人々も多様化し、国際競争力や技術革新力の向上が求められております。その様な時代に合わせた人材育成のため、東京都市大学では“TAP(東京都市大学オーストラリアプログラム)”を始め、“ひらめきプログラム”等プログラムが多数用意されています。

私達がキャリア(人生そのもの)を考えていく中には、“Will(何をしたいか)/Can(何が出来るか)/Must(何をなすべきか)”のフレームワークがありますが、“Will”を明確にするのに、「何に興味を持っているのか」を見つけることは簡単ではありません。学生生活で多くの事を知り、触れ合い、チャレンジして、ご自身の“Will”を見つける機会づくりのため、後援会としても尽力出来ればと考えております。

保証人の皆様には、引き続きご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

東京都市大学 後援会 副会長 **横山 宏**

